



インタビュー

独創性を育んで、「KIT」の名を広く世界に。

人物往来

先端技術と伝統が交錯する京都で

特集

安全で暮らしやすい京都で、
留学生生活を安心して楽しんでいます。

トピックス

- ・ 第9回日本-ベトナム・ジョイントセミナー
- ・ ベトナム教育訓練省と協定を締結
- ・ NAFSA2011において、Study in Japanブースに出展



京都工芸繊維大学 国際交流センター

〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎橋上町1番地

Tel: 075-724-7129 Fax: 075-724-7710

E-mail: ab7129a@jim.kit.ac.jp

<http://www.kokusai.kit.ac.jp/japanese/>

<http://www.kit.ac.jp/>

禁無断転載



京都工芸繊維大学

独創性を育んで、「KIT」の名を広く世界に。

昨年11月、本学の応用生物学課程と造形工学課程の学生からなるチーム「KIT-Kyoto」が、アメリカ・マサチューセッツ工科大学で行われた「iGEM」において、初出場ながら快挙を成し遂げました。プロジェクトのスーパーバイザーである山口教授に、「iGEM」参加の意義について語ってもらいました。

大学院工学科学研究科 応用生物学部門 教授 **山口 政光**



「iGEM」は、学生が遺伝子組み換え技術を活用した作品で創造性を競いあう、合成生物学の世界大会で、CNNやナショナルジオグラフィック誌などのメディアに取り上げられるほど注目度の高いイベントです。その「iGEM」で、「KIT-Kyoto」は世界各国の著名大学から参加した130チーム中、発表ポスターが最も優秀であると認められてベストポスター賞を受賞したのです。これは日本の大学で初めてのことであり、同時に複数の評価基準を満たしたチームに与えられる金賞も受賞しました。

出展作品は大腸菌インクを用いたペン。遺伝子を組み替えた大腸菌にオワンクラゲの蛍光タンパク質を組み込み発光させることで、「バイオアート」を気軽に楽しめるツールを考案したのです。まさに、「科学と芸術の出会い」を標榜する本学ならではの作品といえるでしょう。そのユニークさをより印象的に伝えるために、プレゼンテーションを寸劇仕立てにしたり、ポスターのビジュアルデザインに工夫を凝らしたのが功を奏したようです。

「iGEM」の規定では、プロジェクトの主体は学部生、つまりまだ研究室に配属されていない

い学生と決められていて、大学院生や私のような教員はスーパーバイザーとして関わります。

「KIT-Kyoto」の場合、学生たち自らがチームを結成し、アイデア出しも学生たちが行いました。大腸菌インクのアイデアは、遺伝子工学に対するネガティブなイメージの払拭を目指して考えたものでした。日本で遺伝子組み換え技術というと、いまだ「危険なもの」という固定観念が支配的です。学生たちはインクペンという身近なツールを通して、遺伝子工学の新たなイメージを打ち立てようとしたのです。

このように自らが課題を見つけ、その解決の糸口を独自に探る研究プロセスをいち早く体験できたのは、学生たちにとってたいへん有意義だったと思います。なぜなら、これからの日本に求められる科学技術人材は、与えられた課題を効率的に解決できる人材ではなく、自らの意志で独創的な発想を生み出す人材だからです。プロジェクト開始当初、研究室での活動経験がない学生たちは、いったい何から始めればいいのかも解っていませんでした。そんな学生たちが悩みながらも、日々成長していく姿を見るのはとても頼もしかったですね。国際舞台に飛び

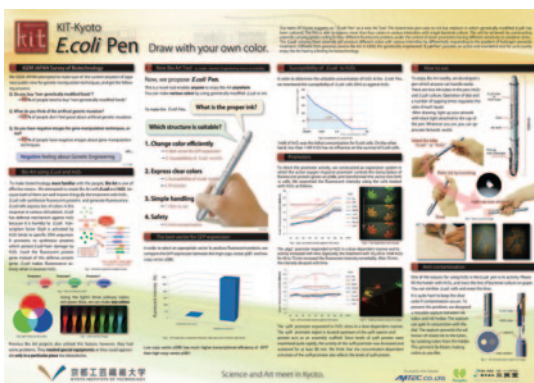
出すチャンスを早期に得られたのもいい経験になったようです。とはいえ世界中のライバルを相手にするには、英語力をよりいっそう高めなければならぬと痛感させられました。そのため、専門的な英語教育の低学年からの導入を急ぎたいと考えています。

ちなみに今年のアイデアは、シヨウジョウバエにヒト白血病の遺伝子を導入して白血病の簡易検査キットを製作する、というものです。今年からアジア地区予選が設けられたため、まずはその突破が目標ですが、シヨウジョウバエを用いた実験はすぐに結果が得られるものではないので、研究にじっくり取り組ませることも重要と考えています。

現在はチームだけですが、ゆくゆくは学内コンペができるほどチームが増えればと思っています。本学には生体分子工学や情報工学など工学課程が充実しているので、遺伝子組み換え技術を競いあう「iGEM」は、本学の優位性を発揮するまたとないステージといえます。また、私は毎年ベトナムの大学で実験指導などを行っているのですが、その学生に「iGEM」の話をするのと皆とても興味深そうだったので、

海外のチームとジョイントするのも面白いかもしれません。今後はさまざまなプロジェクトチームを「iGEM」をはじめとする国際舞台に送り、「KIT」の名を世界に知らしめていきたいですね。

そして、海外からの留学生もぜひKIT-Kyotoに参加して、力を発揮して欲しいです。参加を待っています。



<http://2010.igem.org/Team:KIT-Kyoto>

先端技術と伝統が交錯する京都で

クルステイック・アレキサンドラ

京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科造形工学専攻(2011年卒)
現在は大阪大学工学研究科地球総合工学専攻

クルステイック・アレキサンドラ氏はマケドニアの首都スコピエ出身。

国立聖キリル・メトディオス大学で5年間学び、建築学の学位を取得。

ビジュアルコミュニケーション分野で6年間働いてキャリアを積んだのち、更に学問を追求するため

2008年4月に国費外国人留学生として来日し、京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科にて修士号を取得した。2011年4月からは、大阪大学の博士課程に在籍し、都市環境デザインを専攻している。



私は幼い頃から科学とデザインにとっても惹かれていました。私達の周りでは、自然界の完璧な造形は機能性と美しさを見事に両立しています。私は建築とは、この自然のように機能性とデザイン性を兼ね備えた、便利でかつ快適な創造物を生み出す素晴らしい仕事だと思っています。4年前に建築の勉強を続けようと思ったとき、私は、今までになかったチャンスや、わくわくするような経験に出会えそうな新たな

地で学びたいと考えました。その観点では、日本は技術大国であり、建築や都市設計にも非常に優れた面を持った私の留学先にぴったりの場所でした。

日本政府の国費留学生として採用されたのち、私は日本の大学で研究できる喜びでいっぱいでした。京都工芸繊維大学を選んだのは、技術とデザインの調和が取れていたからです。それは、私がいつも求めていたものでした。京都



まりこじ会館 茶道教室 (2009)
当時の国際企画課課長の協力で、綺麗な着物を着て茶道のお稽古を一日中楽しむことができました。



京都工芸繊維大学 学位授与式の様子 (2011)

という場所も、ここには今日でも多くの伝統家屋があり、伝統的な建築技術が残されているため、大変魅力的でした。加えて、K-Iの理念は、伝統の中の暗黙知を先端技術で形式知化して維持し、発展させようというものでありました。

来日してすぐに、私はK-Iで一生懸命に研究に打ち込む教授やスタッフの姿を見て、このK-Iが素晴らしい大学であるという印象を持ちました。しかし、日本とは全く異なる文化圏からやってきた異邦人の私にとって、一番驚いたことは、指導教官である日向教授や日本建築の研究室の仲間たちによる、公私にわたる温かい歓迎とサポートでした。その支援のおかげで私は多くのリサーチプロジェクトに関わることができました。伝統家屋である町屋のデザインや建築方法についても多くを学ぶことができました。研究室では、伝統家屋や歴史的景観の重要性や、その保存に使用される技術を学びました。これはかけがえのない経験であり、大阪大学で現在行っている研究の素地にもなっています。

現在、私は故郷のスコピエの歴史地区保存活動を行っています。歴史的建築物と都市の街並みとの共存の可能性と、再開発により、それらを再度、際立たせることができるかという点について研究しています。恵まれたことに、私は卒業したにもかかわらず、現在の指導教員と同じくらい日向教授にサポートしていただいています。日向教授と私は、より多くの知識を得て、構築環境の保全に貢献するために一緒に活動しています。

K-Iでの最高の思い出の一つは、2011年3月に行われた学位授与式です。光栄なことに、私は学長の前で、修了者代表としてこれまでの支援と指導への感謝を述べる答辞を読んだのです。自分で日本語の答辞を書きましたが、それが覚えられなくて緊張しました。



日向研究室の学生と共に、故郷スコピエの古い市場の調査を行う (2009)

ちょうどそのころ、日本のすべての人にとって不幸な出来事であった東北地方太平洋沖地震が起きました。私自身も深い悲しみと不安を感じる状況でしたが、自分のためだけでなく、周囲の人のためにも、常に全力で物事に当たらなければいけないという、K-I生活の日々で身につけたことを思い返し、少しでも周りの人のためになればと思い、不安や緊張に負けず、答辞を読み上げました。

学位授与式の後に、数名の修了者が、私に答辞のお礼を言いに来てくれ、緊張がとれました。また、私の母が学位授与式に出席し、嬉し泣きをこらえることができなかった姿を見て、やつてよかったという充実感でいっぱいになりました。東北地方太平洋沖地震があったにも関わらず、私の母は日本に直接出向いて、私がお世話になった教授や周囲の人々に丁寧に礼を述べたい、と言いつ張りました。私はその素晴らしい日のことを、これからも何度も思い出します。

知識や技術を磨きたいと切望する全ての人のために、私は自分自身の経験から、K-Iをお勧めします。フレンドリーで温かい雰囲気の中、自分の専門分野を究め、親切なおもてなしと京都の美しさを満喫してください。

安全で暮らしやすい京都で、 留学生生活を安心して楽しんでいきます。

東北地方太平洋沖地震の京都への影響について

3月11日に発生し、未曾有の大災害（東日本大震災）を引き起こした東北地方太平洋沖地震。

西日本に位置する京都は地震の直接的な被害を免れたものの、原子力発電所の事故などをめぐる海外メディアの

「誇張報道」の余波を受け、本学でもその影響が現れています。

世界に向けて「安全・安心な京都」をアピールするため、

KITで学ぶ4人の留学生の方々に

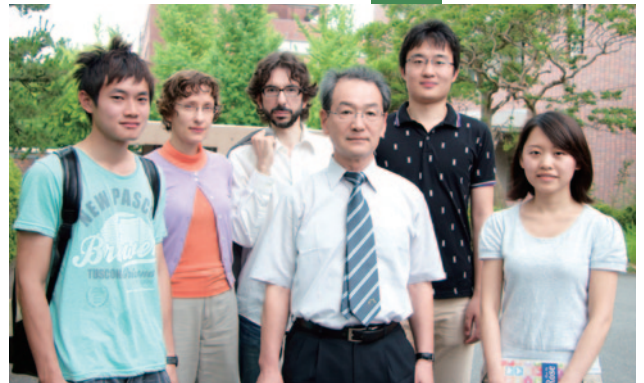
地震後の「京都生活」についてお話しいただきました。



イタリアからの電話で 地震発生を知る

古山 テーブルトークに入る前に、東日本大震災の被災者の方々に心からお見舞い申しあげますとともに、一日も早い復興をお祈り申しあげます。さて、東北地方にかつてない被害をもたらした今回の地震では、震源から数百キロ離れた京都でも震度1から3を観測しました。皆さんは地震が起きたとき、どこで何をされていたか。

ティトゥアン 九州の長崎にいて、テレビのニュースで地震発生を知りました。長崎は揺れませんでした。京都は大丈夫かと思って友人に電話をしたところ、その人は地震が起きたの



現在、本学には30カ国・170人※の留学生が在籍し、京都市内有数の良好な自然環境に恵まれたキャンパスで学業や研究に励んでいます。※2011年5月1日現在

を知らなかったんです。

マウロ 私もそうです。揺れをまったく感じませんでした。イタリアにいる母からの電話ではじめて地震が起きたのを知ったぐらいです（笑）。

古山 最大で震度3の揺れを記録したにもかかわらず、地震発生に気づかなかった人が多かったようです。また、これは本当に幸いでしたが、京都では建物などへの被害もありませんでした。ティさんとダリルさんは、そのときどこにいたのですか。

ティ 春休みを利用して中国に里帰りをしていました。ニュースを見てびっくりしましたね。

ダリル 私は4月に京都に来たので、そのときはまだシンガポールにいました。

古山 日本に来ることに心配はなかったですか。また、ご家族の反対はありませんでしたか。ティ 中国でも毎日のように地震の被害が報道されていたので、家族や現地の友人は反対していません。京都の友人から「大丈夫」という情報を得ていたものの、自分の目で確かめるまでは私も正直不安だったんです。日本に着いて、関西国際空港から京都に移動する間の車窓風景に、以前と全然変わったところがないのを見てホッとしました。もちろん京都に被害はまったくなく、そのことを知らせると家族も友人もとても喜んでくれましたね。

キャンパス内の放射線量は 通常レベル

古山 本学の国際企画課では地震発生直後に留学生向けの説明会を開きました。

ティトゥアン 説明会では、地震がふたたび起きたときにはどう行動すればよいといった実践的なアドバイスを得ることができました。私はまだ日本語があまりできないので、英語での説明会は助かりました。また、安否確認のEメールもすぐにいただいて心強かったですね。あと、担当の先生にもいろいろとお世話になりました。



古山正雄副学長

ダリル 僕は京都に来る前、福島県の原子力発電所の事故による放射能の影響がとても気になっていました。

古山 本学でも放射線量のモニタリングをキャンパス内で開始し、1ヶ月以上続けましたが、健康に影響がないとされている通常レベルの放射線量しか検出しませんでした。

マウロ 私の両親も放射能の影響を強く心配して、「早くイタリアに帰って来い」と言っていて、それは嫌でした。でも、私の妻は日本人で、私には日本人の友人がたくさんいます。妻や友人と十分に話しあい、京都に残る決心をしたんです。もちろん、京都の安全性を示すニュースやデータを自分なりに検証したうえで決断です。いまでは両親も私の考えを尊重してくれています。そうそう、日本で採れたホウレン草も食べていますよ。

ティトゥアン 水や牛肉への放射能の影響も大きく報道されましたが、心配しすぎではないと思います。

フェイスブックで「京都は大丈夫！」と発信

古山 実は、本学への留学をキャンセルしようか迷っている方がいらっしやいます。その原因のひとつとして、一部海外メディアが誇張や事実誤認にもとづく報道を行い、京都をはじめ日本そのものに対する不安感をいたずらに煽ったことが挙げられると思うのですが、皆さんはどうお考えですか。

ティ 中国では「東日本」ではなく「日本大震災」という報道の仕方がされていきました。そういったニュースに繰り返し触れれば、日本についてある程度の知識を持っている人でも、もしかす

ると日本全体が危ないのではと思ってしまったりかもしれませんね。

ダリル 放射能の影響に関するニュースにしてもそうですが、海外メディアの報道にはかなりオーバーな部分があったと思います。フェイスブックで海外の友人に京都の状況を知らせると、みんなけっこう驚いていましたね。「本当に安全なの？」って。で、「うん、ぜんぜん大丈夫だよ」って書き込むと、またワッと盛り上がるんです。

古山 そのように日本の本当の状況を知らせてくださったことは、たいへんありがたいことだと思います。ところで、原発事故の影響によって日本各地で電力不足の懸念が高まり、その結果「節電しよう」という動きが日本全体に広がりました。それについてはどう思いましたか。

ティトゥアン ライフスタイルの見直しにつながったと思います。自宅や研究室の電気をこまめに消すようにしたり、冷房の設定温度を上げたりと、省エネへの意識が以前よりも強くなったような気がします。

ダリル 僕も電気代の節約に努力しています(笑)。

京都は留学に「なんの心配もない街」

古山 皆さんのお話しをお聞きしていると、安心して京都に住んでいらっしやることがよくわかりました。では最後に、本学への留学を希望されている方にメッセージをお願いします。

ティ 地震の後に、日本人学生といっしょにお花見をしたり、キャンパスのすぐ近くにある比叡山にハイキングに行ったりしました。京都は安全だと思います。そして、K-I-Tには楽しい

ことがたくさんあります。

マウロ 京都は美しい街です。千年の古都にふさわしく文化遺産も豊富で、食べるものだって素晴らしい。皆さん、ぜひ安心して京都に来てください。秋はこの街が一番美しい季節だと思うので、私も楽しみにしているんです。

ダリル K-I-Tでは日本人の友人もたくさんできて、毎日がとても充実しています。お祭りなど、京都には季節ごとにいろいろな行事があるのもいいですね。

ティトゥアン 京都は平和で暮らしやすい街です。だから留学になんの問題もないと思います。私たちといっしょに、K-I-Tで素敵な思い出をつくりましょう。

古山 皆さんの経験や実感にもとづくお話しが、世界へのもっとも誠実で正確なアピールになると 생각합니다。今日はお忙しいなかお集まりいただき、ありがとうございました。このつぎは12月に行われる学長主催のパーティでお会いしましょう。それでは皆さん、これからも「京都生活」をエンジョイしてください。

全員 ありがとうございます。



アリギ マウロさん
■造形科学専攻 博士後期課程
■出身国：イタリア ■2011年4月入学



ヌエン ティトゥ アンさん
■生命物質科学専攻 博士後期課程
■出身国：ベトナム ■2008年10月入学



デイ ギョウトウさん
■機械システム工学専攻 博士前期課程
■出身国：中国 ■2007年4月入学



ソー シーミン ダリルさん
■機械システム工学専攻 国際交流学生
■出身国：シンガポール ■2011年4月入学

第9回 日本-ベトナム・ジョイントセミナー

2011年3月1日～2日、第9回日本-ベトナム・ジョイントセミナーがハノイ医科大学で開催されました。このセミナーは、KITとベトナムの大学や研究機関との研究交流の促進を目的に、2003年から毎年、京都とベトナム各地で開催されているものです。第9回となる今回は、ベトナムの4大学・機関から20以上が参加し、応用生物学分野や高分子機能工学分野など、15名の研究者による最新の研究発表が行われました。

第1回セミナー当時は少数だったベトナム人留学生も、2011年5月現在で15名となり、また、学生の短期留学を支援するショートステイ&ショートビジットプログラムもスタートし、両国を行き来する学生は増加しています。第10回ベトナムセミナーは2011年11月に京都工芸繊維大学にて開催されますが、このセミナーを通じ、KITとベトナムとの協力関係を一層強固なものにしていきたいと考えています。



ベトナム教育訓練省と協定を締結

京都工芸繊維大学は、2011年6月20日付でベトナム教育訓練省（VIED）とのプロジェクト322に関わる協定を締結しました。このプロジェクトは、ベトナム教育訓練省が奨学金を出し、ベトナムの大学教員や行政官を海外の大学に派遣して博士号取得を目指す人材育成プログラムです。今後、2020年までにベトナムの未来を担う人材が、今回の協定に基づき本学大学院で学ぶことが期待されます。

また、類似の計画としてはすでにメコン1000計画が始動しており、メコン・デルタ地域の学生や若手教員が本学大学院で修士号・博士号取得を目指して勉学に励んでいます。



NAFSA 2011において、Study in Japan ブースに出展

京都工芸繊維大学は、海外の大学との交流を促進する目的で、カナダのバンクーバーで行われた NAFSA 年次総会（NAFSA 2011）において Study in Japan ブースに出展しました。この総会は北米における大学の国際交流担当者の国際会議で、今回は約 9,000 名 46ヶ国600機関以上からの参加がありました。本学からは言語文化部門羽藤由美教授と吉井勉学生交流コーディネーターが派遣されました。

会場では各国の国際交流担当者が本学ブースを訪れ、留学プログラムや国際交流協定のことについて活発な意見交換を行いました。担当者同士の交流も深まり、お互いに今後の国際交流の発展への決意を新たにしながら、NAFSA 2011は幕を閉じました。



ご意見・ご感想をお寄せください！

KIT インターナショナルジャーナルをお読みいただきありがとうございます。皆様からのご意見・ご感想をお待ちしています。

e-mail: ab7129a@jim.kit.ac.jp

■ 国際学術交流クラブについて

このクラブは、本学の卒業及び在学外国人留学生、元・現国際訪問研究員、学術交流協定校の教職員など多くの方々により組織されている世界的なネットワークで、本学が国際社会の学術的な発展と科学技術の振興に貢献するための一翼を担うことを目的としています。入会のお申し込み等についての詳細は本学のホームページをご覧ください。

http://www.kit.ac.jp/07/07_070000.html

■ 「皆様を全力でサポートします」

国際企画課及び学生交流コーディネーターは、来日される皆様の窓口として、国際交流センターに関する全ての事務を担当しております。東日本大震災の影響を心配される方もいらっしゃるかも知れませんが、京都にいて震災の影響を直接感じることはほとんどありません。2011年4月から来日された皆様も、例年と変わりなく楽しい毎日を送ってられます。本学の教員は指導熱心で温かく、研究と勉学の場として、また異国の文化を体験する場として、素晴らしい環境がそろっております。我々がサポートいたしますので、ぜひ京都へお越しください。



国際企画課／学生交流コーディネーター

表紙写真提供：KOVAC ALEKSANDAR さん
・クロアチアからの留学生・博士後期課程 造形科学専攻